

# 2024年度の教育活動等に対する学校評価書

2025年3月18日  
 学校法人聖隷学園  
 聖隷クリストファー大学附属  
 クリストファーこども園  
 園長 武田 真理子  
 聖隷クリストファー大学附属  
 クリストファーこども園  
 学校関係者評価委員

## 1. 園目標

<愛>	神様と周りの人に愛されていることが分かり、自分を大切にすることを目指す。
<思いやり>	様々な人々との関わりを通して、思いやりの気持ちを育み共に生きる喜びを知る。
<たくましさ>	自然の中で思いきり遊び、感性やたくましい心と体を育む。
<いのち>	食に関わる体験を積み、いのちがつながりあい、支えられていることに感謝する。
<表現力>	自ら様々なことに取り組み、考えたり表現する力を身につける。
<自立>	生活に必要なことが分かり、自分から身に付けようとする。

## 2. 2024年度の重点課題（事業計画）

2024年度重点目標	<p>① 建学の精神の理解とキリスト教保育に基づいた園運営及び教育・保育活動の実施</p> <p>② 既存施設・設備の使い方の見直しと0-1歳児棟の増築、既存施設の改築検討（園舎・園庭等を含めた全体的な見直し～2025年度工事予定、2026年度より使用開始）                  -満3歳児定員増を踏まえた全体的な園舎・園庭等の使い方の見直し                  -0-1歳児保育・環境の見直し⇒0-1歳児棟増築の検討</p> <p>③ 子育て支援環境の充実（妊娠期からのサポート）、職員研修の実施                  -大学との連携、専門職を活用した支援の実施</p> <p>④ 3歳児の定員確保（満3歳児クラスの充実）                  -入園説明会・見学会の実施スケジュール、規模等の見直し                  -専門的知識・技術を活用した広報、情報発信を行う</p> <p>⑤ PYP認定校として（認定校1年目）                  -職員に対するPYP研修の実施、本園独自のポリシー・カリキュラム作り                  -小学校とのPYP教育プログラムの連携と協働</p> <p>⑥ 森（エムガーデン）を活用した自然活動の実施（3年計画の2年目）                  -課内イングリッシュ活動を森で実施し、探究的な学びを深め、SDGsへの関心を高める</p> <p>⑦ 園庭の再構成（3年計画の3年目）                  -園舎増築を見据えた園庭整備の計画作成と実施                  -現状設備の点検及び危険箇所等の整備（継続）</p> <p>⑧ 専門性や得意分野に合わせて各リーダー、教諭、クラスリーダー補助（準職員）、保育補助スタッフ（無資格）の業務・役割の明確化を行う。（継続）                  -確保が困難な時間帯（早番・遅番）に勤務する職員の時給改定                  -保育補助スタッフの充実（ICT、記録スタッフ・無資格者の資格取得応援）</p> <p>⑨ 園で定めた研修テーマに係る研修及びキャリアアップに係る自主的な研修の受講を支援する。                  -園で定めるテーマに関する研修への職員の積極的な派遣                  -キャリアアップに係る自主的な研修の受講の支援（費用、勤怠の調整等）</p>	重点目標に対する評価	<p>① 子どもたちへ伝えたい聖書のメッセージを、保育者から牧師に積極的に依頼し、牧師が語る言葉から保育者自身が学ぼうとする姿勢が見られた。</p> <p>② 0, 1歳児クラスにおいては、保育アドバイザーによる具体的な指導の下で、徹底した日課作りと、子どもとのかかわり方について、職員が共通の理解を持てるようにした。子ども達にも変化が現れ、自立した姿が見られるようになった。</p> <p>③ 需要の高い一時預かりを積極的に行ったが、安全面と子どもの育ちにとっての影響を考え、より良い預かり方法を検討したい。</p> <p>④ 英語版のホームページを作成し、クリストファー新聞、インスタグラム等では積極的に子どもたちの育ちの姿を発信した。</p> <p>⑤ 保護者向けのPYPワークショップを開き、学年を超えて実施している探究ユニットを公開した。</p> <p>⑥ 園で作った“たい肥”を使って、エムガーデンで野菜を作るなど、園とエムガーデンを繋げ保育を展開することが出来た。</p> <p>⑦ テラス沿いに設置した庇は日除けや雨避けになり、登園降園時や生活がスムーズになった。</p> <p>⑧ 幼稚園一種免許を取得する保育者に加え、無資格者も積極的に研修に参加し、保育をサポートするための学びを得ることが出来た。</p> <p>⑨ 職員がそれぞれに学びのテーマを持ち、園内だけでなく園外の研修にも積極的に参加することができた。学ぼうとする姿勢が他の職員にも良い影響をもたらした、園での実践につながった。</p>
------------	---	------------	--

## 3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価（※評価は、○・・・目標どおり達成できた、△・・・十分に達成できていない・次年度の課題である、で表している。）

重点課題	基本目標	行動目標	個別行動目標	具体的な取組み	自己評価	評価のポイント	学校関係者評価	評価の要点・意見等
教育・保育方針	「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」の理念に基づき、スタッフ（教職員）が一致協力して、個々のこどもの発達段階や状況に応じたきめ細やかな援助・指導を行い、健やかな心身の成長発達を育む。	キリスト教保育について理解を深める  重点項目①	聖書(み言葉)について学ぶための機会を設ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>各保育教諭が聖書物語を子ども達に語るができるように、研究・準備をする。</li> <li>自主的な聖書の学びの会を持つ。</li> <li>基本理念をよく理解し、キリスト教保育に基づいた教育保育活動や園運営に取り組む。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年は、近隣の教会の牧師先生に、こども園会議の礼拝を数回、担当して頂いたことがきっかけとなり、各学年の担当者から牧師へ、子どもたちへ聖書の物語を話して欲しいとの依頼があった。どんな内容のお話をして欲しいかを積極的に依頼し、子どもたちに語られるお話から、保育者自身が学ぼうとする姿勢が見られた。また日頃の礼拝とクリスマス礼拝が繋がったことにより、子どもたちにとっても聖書のお話が身近なものとなった。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>キリスト教保育の現場、またキリスト教に基づいた保育者養成にも、豊かな経験をお持ちの牧師先生に関わっていただくことができたことは、今後につながっていくような気がします。できれば、保育者や保護者自身がキリストとの出会いを感じてもらえると、そこから子どもたちに伝わるだろうと思います。</li> <li>保護者会のクリスマス会で牧師先生からお話いただいた内容がとても分かりやすかったです。</li> </ul>

重点課題	基本目標	行動目標	個別行動目標	具体的な取組み	自己評価	評価のポイント	学校関係者評価	評価の要点・意見等
保育環境の充実	健全な発育・発達や充実した学びのための環境をつくる。	保育室の環境の見直し改善を図る <b>重点項目②</b>	0～2歳児クラスの保育環境(育ちや学びを支える)について研修し、実行に移す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各保育者が園内研修から気づいたことをもとに、保育室の環境を改善させ充実させる。</li> <li>満3歳児クラス拡充による保育室の再構成と、0～1歳児の保育環境の見直しを行う。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級児2歳と、入園時期の異なる新入園の満3歳児において、それぞれに合った環境を整えることが難しかったが、保護者にも協力を得ながら、入園時期や降園時間を揃えたり、また少人数のグループ分けや、日課や動線などを整えることで、お互いに落ち着いた生活を送ることが出来るようになりつつある。</li> <li>0,1歳児クラスにおいては、保育アドバイザーの職員による具体的な指導の下で、徹底した日課作りと、子どもとのかかわり方について、職員が共通の理解を持てるようにした。職員が同じ方向を向くことで、子ども達にも変化が現れ、自立した姿が見られるようになった。これらを次の学年に繋ぎ、園全体で一貫した生活の流れを作っていきたい。</li> <li>建築会議等での話し合いを重ね、新棟増築から既存施設の改修へと整備内容をまとめることができた。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育において環境は大切な要素であるが、安全と衛生に配慮されていれば、子どもたちの年齢に応じて配慮すべき重点は違ってくるのだろう。保育者から生活共有者、周囲の人たちと広がっていく。人間関係以外では、手の届く範囲の物、おもちゃ、部屋、庭(お外)、社会へと広がっていく。アドバイザーが具体的にどのような助言をされたのか興味深いのが、園全体で一緒に振り返りができたことはよかったです。</li> </ul>
子育て支援・保護者との連携	子どもの望ましい成長・発達について保護者の理解を促し、共に成長を支える。	日々の園での子どもの様子を丁寧に伝え、意見交換を行う。	ラーニング・ストーリーを活用する。	<b>継続</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の子どもたちのラーニング・ストーリーから育ちや学びを捉え、保護者懇談会の資料として活用する。保護者からのフィードバックも参考にしながら、次の保育の手立てを考える。</li> <li>ドキュメンテーションやブログなど伝える情報や頻度に応じた媒体を検討し、書き方や作成の職員研修を実施する。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>未満児クラスにおいては、ラーニングストーリーに加え、日々の連絡ノートの中に写真を取り入れ、子どもの成長の喜びを保護者と共有できた。</li> <li>以上児クラスにおいては、子どもの育ちをPYPの学習者像と照らし合わせて評価し、保護者に伝えることができた。</li> <li>ラーニングストーリーの作成では、これまで全て管理者が添削し、保育の視点における指導としても重視してきたが、今年度からは全ての保育者がフラットな立場で感じたことを書き込み、協同作業として完成させることができた。</li> <li>園から配信されている、ブログ、クリストファー新聞、インスタ、連絡ノートなどについて、保護者の関心度、満足度などの細かいアンケート調査を実施した。これの結果を生かして、今後の方向性を検討する。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と園を行き来して生活する子どもたちの生活の中で、どのような経験をしながら成長しているのか、子どもたちの視線にたったストーリーを共有できるよう、様々に取り組んでおられることが分かる。</li> <li>上手くいくときも、反省することもでてくるが、子どもの成長に双方が協力して関わっていることを受け止められることが大切だと思った。</li> <li>ラーニングストーリーでの保育者からのメッセージは子どもの様子を知ることができ、家庭で共有する機会となっている。</li> </ul>
	保護者や地域子育て家庭のニーズを理解し、適切な子育て支援内容を計画・実施する。	子育て支援の充実 <b>重点項目③</b>	子育て支援環境の整備、支援内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>0～2歳児の定期的な受入れを行い、1号認定入園につなげる。</li> <li>子育て支援広場の拡充として、こども園の子育て広場カンガルーと、大学の子育て支援たっくんをコラボレートさせて新たな広場として展開する。それぞれに担当者を置き、プログラム、環境の整備を行う。</li> <li>子育て支援広場の担当者の研修を行う。</li> <li>学童保育実施に向けての検討</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>需要が高い一時預かりを積極的に行ったが、慣れない子どもの預かりは危険なこともあり、また子どもにとっても泣いて過ごす時間が多く不憫に感じた。安全面と子どもの育ちにとっての影響を考え、出来る限り毎日登園ができる方法を探りたい。</li> <li>自治会でのちらし配布など、広報媒体を拡充した。</li> <li>子育て支援広場は、十分な周知までは至らなかったが、リピーターも少しずつ増え始めている。本来の目標である「かかりつけ広場」となれるよう、誰でもいつでも来る事が出来るよう、内容、広報等工夫していく。</li> <li>子育てひろばたっくんは、学生が定期的に訪れた。実際に赤ちゃんに触れたり、経験豊かな職員の話の聞いたりして、貴重な学びの体験を得ることが出来た。</li> <li>学童保育については、今後具体的な検討をすすめていく予定。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に家庭で生活する子どもたちは、保護者と保育者の関係が在園児とは違ってくると思われるが、保護者(特に母親)が孤立を感じないように、不安が放置されないようにするために大切な役割があると思っている。</li> <li>学生のみならず、地域のご年配の方たちなど、子どもと養育者に様々なまなざしが向けられる場づくりが大切である。それは学齢児にも(低学年では特に)同様のことが言えるが、学校との連携、高学年になるほど子ども自身の行動範囲も広がるので、地域全体での取り組みが求められる。学童保育への取り組みに期待したい。</li> <li>子育てひろばが大学とのコラボで、地域のセンター的な役割を担えるようになるとういと思う。</li> </ul>

重点課題	基本目標	行動目標	個別行動目標	具体的な取組み	自己評価	評価のポイント	学校関係者評価	評価の要点・意見等
入園児募集	聖隷学園やクリストファーこども園の保育が地域や保護者にさらに理解されるように働きかけ、共に子どもの育ちを支える意識を高める。	定員の確保・説明会、見学会等の実施。広報（ホームページ等）の充実  重点項目④⑧	ホームページ・ブログ等を活用した募集・広報活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTに関する専門的な技術・知識を活用して、ホームページやブログの配信など、ステークホルダーに届く広報活動を展開する。</li> <li>ホームページの内容を随時見直し、閲覧者が園や学校に足を運ぶよう工夫する。</li> <li>ホームカミングデーの実施、インスタグラムを活用し、小中高大接続を意識した広報活動を行う。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの英語版も作り、より多くの人に関心を持ってもらえるようにした。</li> <li>クリストファー新聞、インスタグラム等、積極的に配信し、子どもたちの育ちの姿を発信した。</li> <li>職員全員が募集活動に取り組み、募集のアイデアや説明会等の案内配布などを行った。今後は、より様々な職員が、募集活動に加わり魅力的に、こども園を紹介していきたい。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>園のことを知ってもらうために様々な工夫がされていることを知りました。ICTを活用することによって効率よく伝達することができますが、インスタグラムのフォロー数など、数値化できるデータがあると参考になると思いました。また、受信側（保護者、地域の方たち）の評価がどのように把握されているのかも知ることができたらいいと感じました。</li> <li>小学校との連携がもっと活発になると良い。</li> </ul>
	聖隷クリストファー小学校との接続を考慮しての教育内容を検討し、実施する。	国際的感覚や外国語に対する関心を広げる  重点項目⑤	PYP 認定校として（認定校 1 年目）	<p><u>継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PYP 更新に向けたスケジュール作成(随時見直し・更新)、実施</li> <li>異文化・異言語プログラム(活動内容)と環境(外国人講師の配置、室内環境等)の見直しを行う。</li> <li>職員に対する PYP 研修の実施</li> <li>小学校との PYP 教育プログラムの連携と協働</li> <li>保護者への説明、地域のニーズ調査の実施</li> </ul>	△○	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者向けの PYP のワークショップを開き、学年を超えて、今やっている探究ユニットを公開した。保護者は見学や体験を通して、学習コミュニティとして参加した。(参加者少ないことが課題)</li> <li>ユニットが始まる前にはカリキュラム、終わった後は新聞で、子どもたちの学びを共有した。</li> <li>来年は地域とも繋がっていきたい。</li> <li>小学校との連携は、3学期に行う。次年度はもう少し早くから計画を立て、実践していく必要がある。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際標準の保育・教育内容を充実させることを目標にすることから、PYP や IB などの英語表記に頼りがちで、横文字、外国語で聞くと何となく特別感があって興味はそそられますが、内容を理解するためには日本語での説明が欲しいと思いました。園での実際の様子を見れば、感覚的に分かってくると思いますが、日本語で要点を理解してもらえるとよいと思います。小学生、中学生、高校生との異年齢が交流する機会は、お互いに感性が育まれるためにも考えてよいことだと感じます。</li> <li>地域と保護者と一緒になって子どもを、そして保護者を支援し、共に育つようなラーニングコミュニティが充実していくと良い。</li> <li>聖書の学びのワークショップがあると良い。</li> </ul>
特色ある保育の展開	戸外や自然の中でのダイナミックな体験活動ができるよう、計画・実践・評価を行う。	子どもたちのセンス・オブ・ワンダーを育むための環境を整備する。  重点項目⑥	森(エムガーデン)を活用した自然活動の実施(3年計画の2年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>森での活動を通して探究的な学びを深め、命の繋がりについての関心を高める。</li> <li>森の敷地内で屋内活動場所を整備し、子どもたちの学びの活動環境を整える。</li> <li>職員研修を実施し、森の活動についての理解を深める。</li> <li>保護者の理解と協力を得るよう働きかける。(情報提供、ボランティア)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>エムガーデンでの活動では、子どもたちに経験してほしいことと、子どもたちが感じるままに過ごせる時間を分け、十分な時間と空間の中で、少人数で楽しむことが出来た。また園で作ったたい肥を使って、エムガーデンで野菜を育てるなど、園とエムガーデンを繋げ保育を展開することが出来た。</li> <li>職員の数名は自ら山梨まで出かけ、農作業のワークショップを受け、それらの技術を使って、園庭にも様々なしかけを作った。来年度は生き物についてもより学びの場を整えていきたい。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近に自然を感じ、日常的に自然に触れ合える場所は、移動手段の限られる幼い年齢ほど意識的に考えてあげたいことです。幼児のみならず、ご高齢の方たちにとっても、ハンディのある人にとっても、Mガーデンは三方原聖隷エリアの中で大切にしたい場所だと思います。教会も一緒にそのあり方を考えていけると嬉しいと思います。</li> <li>大地を耕すように手間暇かけてつくる子どもの文化を作っていくことは、今後ますます大切になると思います。</li> </ul>
	安全かつチャレンジできる園庭を造る  重点項目⑦	園庭の再構成(3年計画の3年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の年間実施計画を立て、園庭の整備及び時期活動計画の策定をする。(2024/7/26、11/9、2025/3/29)</li> <li>園舎増改築を見据えた園庭整備の計画を作成する。</li> <li>保護者の理解と協力を得るよう働きかける。研修及び整備のための作業(園庭ボランティア)を行う。(年3回)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年は新しいものは作らず、主にメンテナンスを行った。また登園降園時がスムーズになるよう、玄関の役割りを持つ、庇を作った。これらは雨除けや、暑い日にも役に立ち、生活がスムーズになった。</li> <li>今後は、自然体験として実践してきた緑化計画(ゾーンニング)と合わせて、園庭の在り方を検討していく予定。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭は、子どもたちにとって最も身近な屋外空間です。屋外での豊かな体験ができる場所であることを思いつつ、大切なことを押さえつつも、子どもたちと造ったり、壊したりしながら、完成形を決めずに活動できる場所だと楽しいですね。</li> </ul>	

重点課題	基本目標	行動目標	個別行動目標	具体的な取組み	自己評価	評価のポイント	学校関係者評価	評価の要点・意見等
特色ある保育の展開	スタッフ（教職員）が一致協力して、個々のこどもの発達段階や状況に応じたきめ細やかな援助・指導を行い、健やかな心身の成長発達を育む。	少人数保育、専門性の強化を実施する。	スタッフ間の連携・チーム作り 重点項目⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門性や得意分野に合わせて各リーダー、メンター、教諭、クラスリーダー補助（準職員）、保育補助スタッフ（無資格）の業務・役割の明確化を行う。（継続）</li> <li>ICTの専門的知識・技術の導入と活用</li> <li>職員のICTスキルアップのための研修を行う。</li> <li>保育補助スタッフの充実を図る。（ICT、記録スタッフ）</li> <li>無資格者の資格取得応援</li> </ul>	△○	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年は、幼稚園一種免許を取得する保育者に加え、無資格者も積極的に研修に参加し、保育をサポートするための学びを得ることが出来た。アシスタントが保育の中に入り、得意な分野が活かされ、保育が豊かになった。</li> <li>様々なICTにより、業務効率があがってきているが、一部、苦手とする職員が消極的であった。仕事の偏りを避けるためにも、全ての職員にわかりやすいスキルアップ研修が必要である。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITの活用は、効率のよい情報共有への取り組みということだと思った。</li> <li>例えば、聖隷国際教育学会などで日々の実践を振り返り発表すること等挑戦していただけるとキャリアも充実すると思う。</li> </ul>
特色ある保育の展開	大学や地域の専門家・専門機関との連携により学問的根拠に基づく保育の展開を行う。	発達に関する課題に沿って、大学や専門家と共に実践的研究を行う。	運動遊びを通して身体的発達を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>室内・屋外遊具などでの遊びを中心に、身体的機能を高める遊びを保育に取り入れて実践する。</li> <li>運動発達の測定を行い、育ちについて可視化し、保護者にフィードバックする。</li> <li>保育の在り方について考察し、保護者と共有する。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力測定では平均値を上回る結果を得た。子どもたちの身体的機能の育ちについては、保護者にフィードバックすることが出来た。今後はこれらを分析し、継続または更なる向上を目指す。</li> <li>クリストファー大学の教員がキンダーカウンセラーとして、保護者の相談に応じて下さり、専門的なアドバイスにより保護者の悩みが軽減した。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>聖隷クリストファー大学や関係施設等の専門分野の関係者から保育等へ助言または参加を得ることは、大学附属園の強みだと思う。</li> </ul>
			言語・想像力を獲得するための取り組み 重点項目⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本や物語を楽しみながら遊びの世界を広げ、言語感覚・想像力を育む。</li> <li>子どもの発達や保育のねらいに応じた絵本の選別や絵本を文化として捉えるための研修を実施し、職員間の共通認識を図る。（継続）</li> <li>発達支援の専門家による園内研修（年3回）を実施し、一緒にアセスメントを行い、子ども達に対する今後の捉え方・関わり方などについて理解を深める。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人の保育者が、積極的にストーリーテリングを保育の中で実践した。周りの保育者も影響を受け学びの意欲が高まったため、ストーリーテラーの講師を呼んで研修を受けた。</li> <li>研修に用いた書籍を、発達の指標とし、カリキュラムを作ることが出来た。また研修は、対面の他にもオンラインで視聴できるようにし、1年間の中で、自分のテーマをもって受講することができるようにした。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語（理解力、表現力）の育ちは、保育の中で大切なテーマの一つだと思う。園全体として、具体的なテーマについて学び、見識を深めていくこと、それを基にして実践していくのはとても良いことだと感じる。</li> <li>絵本をたくさん読み、子どもの遊びが発展していると感じる。</li> </ul>
安全・危機管理	災害時や園児の病気・事故、不測の事態に備えて、具体的な対応策の確認と訓練の実施	不測の事態・危機管理体制の充実を図る	保育安全マニュアルの見直し・更新を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>随時保育安全マニュアルの見直しを行う。</li> <li>各訓練（防災、不審者、園バス運行、園外保育など）の実施と役割の明確化、訓練後のマニュアル更新と職員への共有・周知を行う。</li> <li>不測の事態に備えた保護者への速やかな連絡システムの構築</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>お散歩に行くことが増えたため、お散歩マップや名簿のチェック方法などを再検討し、より安全に散歩ができるよう、職員への周知、共有を行った。</li> <li>プールや誤飲誤嚥等の事故防止研修（オンライン）を代表者が受け、職員会議で報告・共有した。</li> <li>今年は防災食作りのワークショップを行った。参加人数がもう少し増えると良い。</li> <li>南海トラフ地震臨時情報の発表に伴い、園内の家具や備品等の転倒防止や備蓄品の再確認を行った。また、園児及び職員の安否確認のための登録フォームとルールを作成し、周知した。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理は、日常生活上の危険予測とそれに対する対応と、想定される災害（非常時）への備えという二通りの課題がある。どちらにしても、現状を繰り返し検証しつつ、知識と対応方法について共通理解を高めていくしかないと思っている。</li> <li>防災に関する学びの機会は、これからも継続してほしい。</li> </ul>

重点課題	基本目標	行動目標	個別行動目標	具体的な取組み	自己評価	評価のポイント	学校関係者評価	評価の要点・意見等
スタッフの資質向上・連携	保育・教育専門職者として意識を持ち、研鑽に努める。	主体的な研修と学びの促進 重点項目⑨	各職員のキャリアアップのための、自発的な研修を促す。	<u>継続</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアアップに係る自主的な研修の受講の支援（費用、勤怠の調整等）</li> <li>オンラインによる研修の実施、研修視聴環境の整備</li> <li>資格取得支援</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面、オンライン、両方のキャリアアップに出来る限りの職員が参加した。</li> <li>オンラインで受講可能な様々な分野の研修を、どの時間帯でも受講できるように、配信した。</li> <li>職員がそれぞれに学びのテーマを持ち、園内だけでなく園外の研修にも積極的に参加することができた。学ぼうとする姿勢が他の職員にも良い影響をもたらし、園での実践につながった。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的な研修と学びの促進」を掲げていることはいい目標だが、職員が「主体的」であるためには、研修が責任・義務としてではなく「学びたい」という気持ちからのものでありたい。スキルアップはそれぞれ心掛けたいが、キャリアアップは必ずしもみんなが望んでいないかも知れない。</li> </ul>
			園内研修を定期的に実施する。	<u>継続</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>園で定めるテーマに関する研修への職員の積極的な派遣</li> <li>ぐうたら村での自然体験講座1年間で4回コースに2名派遣。農作業を通して、保育や園庭のデザインを考える。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>2名の職員が自然活動や農作業の研修を、八ヶ岳のぐうたら村で受講した。講義ではなく、実体験で得た学びを園に持ち帰り、他の職員にも良い影響をもたらした。</li> <li>はごろも教育研究助成賞『自然との共生』（3年計画の2年目）をテーマに、身近な自然としての園庭について研修・フィールドワークを行った。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修、チームとしての学びの場は、チームワーク、組織的な働きをする上で、大切なことである。共に働くうえでの基本理念の確認、園としてのシステム・ルールの共有、業務に必要な基礎知識の習得など、成果は日常業務の中で比較的分かりやすいかたちで感じられると思う。</li> <li>はごろも教育研究助成賞での取り組みを、学内学会等で発表するとより研究が広がっていくと思う。</li> </ul>
		保育者としての責務と倫理を理解する。	園児や保護者との適切な関わりについて共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権を尊重した関わりの共通理解と実践</li> <li>講師を招いての園内研修（ハラスメント研修を兼ねる）の実施</li> <li>人権擁護のためのセルフチェックリストの実施と園全体での振り返りを行う。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリストファー大学の教員を講師として、ハラスメントや虐待についての研修を受けた。</li> <li>人権擁護のセルフチェックを実施し、職員各自と園全体の振り返りを行う。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権、命の尊厳などは、知識も必要かもしれないが、実際には感性が育まれるなかで身につくのではないかと思っている。大学附属園として関連する事例を多く得られると思うので良い学びになると思う。</li> </ul>
園経営全体の向上	働き方改革一定時退勤を目指して、タイムマネジメントができるように支援	学園の働き方改革推進	保育準備・事務的作業の環境整備 ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した情報共有や記録の一元化を進め、会議や記録等の簡略化を行う。</li> <li>ネット環境を整え、園内でのICT作業の効率化を図る。</li> <li>学年リーダーと一緒に、タイムマネジメントを組み立てる管理者を配置する。</li> <li>ノンコンタクトタイムの確保と勤務時間内での作業効率化</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス便りを減らしてブログに変えたり、リーダーが学年を超えて、マネジメントをしたりして、時間を生み出す努力をした。また、ラーニングストーリーなどの記録を共同作業にしたことにより、取り掛かりが早くなり、持ち帰り仕事もなくなった。互いに信頼しあい、ノンコンタクトタイムを少しずつではあるが、とることにより、事務仕事の効率化も図れてきている。以前に比べて勤務時間を大幅に超えることがなくなってきた。行事前はどうしても遅くなりがちのため、来年はもっと徹底して改善していきたい。</li> <li>終礼に加え、昼礼も取り入れ、一日の後半の仕事を周知し、仕事の効率化を図る。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>「働き方改革」は、社会的に求められている課題の一つであるが、本来は、仕事が楽になればよい、労働時間が短くなればよいという単純なものではないと思っている。「楽しく仕事できていますか」「やりがいを感じていますか」という視点に立って考えてみてはどうだろうかと思っている。</li> <li>生成AIなどもうまく活用されると、記録も楽になるのではないと思う。先生の負担を減らすと同時に、内容を充実させることができると思う。</li> </ul>